

様式第2号（第9条関係）

会議録

会議の名称	第1回 ふじみ野市 一般廃棄物処理基本計画 市民検討委員会	
開催日時	令和6年11月1日（金） 開会時刻 午前10時00分 閉会時刻 午前11時30分	
開催場所	ふじみ野市役所本庁舎 A301会議室	
出席した者	・市民検討委員会委員 高原委員長、鎌田副委員長、西村委員、関口委員、笠谷委員、永田委員、関根委員 ・事務局（環境課） 坂本課長、齋藤係長、吉田主任、長谷部主事	
会議の議題	1 会議 (1) 開会 (2) 会長あいさつ (3) 議題 一般廃棄物処理基本計画の進捗状況 災害廃棄物処理計画について (4) その他 (5) 閉会	
会議の公開又は非公開の別	公開	
会議の非公開の理由	—	
傍聴人の数	—	
会議の内容	別紙のとおり	
会議資料	別添のとおり	
事務局	市民活動推進部 環境課	
議事の確定	確定年月日	令和6年11月13日
	記名押印 又は署名	役職名 委員長 高原 サチ子

別紙

発言の要旨

発言者	発言の要旨
高原委員長	議題「ふじみ野市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について」事務局から説明をお願いします。
事務局	○配布した【資料 1】に基づき説明
高原委員長	質問のある方はいらっしゃいますか。
西村委員	食品ロスを減らすためにドギーバッグの普及に取り組んでいることは理解できたが、そもそも飲食店で余計なものは頼まないということを市として啓発すべきではないか。
事務局	余計なものを頼まなければ食品ロスにもならず、飲食店にとっても持ち帰りの案内も不要となる。市としても今後の取り組みとして検討します。
西村委員	雑がみキャンペーンについて、環境センターの見学時などの限られたタイミングだけでなく、幅広く実施したほうが効果を期待できるのではないか。
事務局	イベント時にも雑がみの回収は実施している。また、環境センターの見学は小学 4 年生を対象としているが、雑がみキャンペーンを実施することで資源物への意識啓発を目的としていることはもちろん、「今日学校の授業で環境センターに行ってごみの分別を学んできたよ」といった、ぜひ家族の会話のひとつにしてもらいながら、各家庭においてごみ減量に向けたきっかけづくりになってもらえたらという思いもある。
西村委員	生ごみ処理機購入にかかる補助金の導入について、事例研究とはどういったことだったか、改めて教えてほしい。
事務局	埼玉県各市町村が集まる場があり、様々な自治体と意見交換をしている。他市の中には家電量販店などに売っている生ごみ処理機の補助金を出している自治体もあるが、ふじみ野市としては、ごみ減量をすすめる会の方をはじめとしてキエーロの普及に取り組んでいるところである。こういった自然の原理で循環できる仕組みであることを引き続き周知しながら、多くの方に使っていただけるよう取り組んでいきたい。一方で今後の事例研究という点については、適宜最新情報を入れるという意味で常にアンテナを張っていく。

発言者	発言の要旨
西村委員	ごみ減量に向けて様々な取り組みをしているのはわかった。取り組みの積み重ねももちろん大切だが、もっとごみの減量の本質について考えてみてはどうか。例えばもやすごみの中に資源物が多く含まれているのが現状であり、こういった状況を踏まえて市全体で啓発していくほうがいい。
事務局	ご指摘のとおり。様々なキャンペーンなど取り組みを検討していく。
関口委員	公園から出た剪定枝のチップ化について、どこの公園か。
事務局	ウッドチップをまいた事例としては西八丁緑地に限るが、今後は剪定枝をチップ化し実用するまでの一連の流れを、市内で循環できる仕組みづくりを検討していきたい。
関口委員	街路樹など、市が委託した業者が収集した剪定枝なども対象にしているのか？
事務局	収集した後の処理は委託業者の任意による。例えば、環境センターにまとめて搬入する業者もあれば、いくつかの業者にはウッドチップへ再利用する会社へ持ち込んでいる。そのため、市から処分先を指定はしていないものの、今後は市内で循環できる仕組みづくりを検討していきたい。
関口委員	事業ごみで入った4品目はどうなっているのか。それぞれ処理をしているのか。
事務局	搬入されたあとの工程は家庭ごみと同じであり、処理方法も家庭ごみと変わらない。事業ごみは4品目に限って搬入ができるため、その点については事業者の指導を必要に応じて行っているところである。
笠谷委員	西村委員より食品ロスについて余計なものを頼まないという話があったが、飲食店にとっては売上の減少となってしまう。
西村委員	小盛り（割引）、大盛り（課金なし）など、自分の食べられる量を選ぶような工夫があるので、適宜そういった選択をするよう市では推進してほしいという考えである。お店の売り上げが減ってしまうことや、注文を控えてほしいという意味ではない。

発言者	発言の要旨
笠谷委員	ファミリーレストランなどでは注文時に量を選べるのを見かけるが、個人商店で同じように対応できるかと言われると厳しいと思う。食品ロス問題に取り組むことは重要だが、各事業者がどこまで取り組めるかは事業者次第になると思う。
笠谷委員	1530運動は普及しているとは思いますが、冷蔵庫に貼れるようなマグネットを作るのはどうか。
事務局	昨年度作成したものがあり、キャンペーンにて市民へ配付したところである。こういったキャンペーンは継続してこそ効果が出てくると考えているので、引き続き取り組んでいく。
笠谷委員	マンションで「リチウムイオン電池が爆発した」という貼り紙を見た。電池は最終的にどのように処理しているのか。再資源化しているのか。
事務局	リチウムイオン電池の爆発の件については、環境センターで発火した事例もある。市民の方へもバッテリーありと明記してからごみに出すよう案内している。 また、リチウムイオン電池などの充電式電池については一般社団法人 JBRC へ引き渡し、適切にリサイクルしている。他の電池については埋め立てるしかないのが現状である。
笠谷委員	新規採用職員向けのごみ分別の指導について、職員全体に向けた啓発も実施したほうがよいのではないか。
事務局	最近では市外の職員も多くの採用している。新規採用職員に限らず現職の職員も含めて、市の代表として模範となるような捨て方をするよう指導しているところではあるが、引き続き取り組んでいく。
関根委員	ふじみ野市では仮置き場の予定地などはあるか。
事務局	人命が第一優先であるため、各小中学校は避難所として開設する。そうすると小中学校のような広い敷地でごみの分別をするのは難しい状況になる。そのようななかで、仮置き場については必ず設置するというよりは、必要に応じて設置をしていきたいと考えている。令和元年の台風の被害時には、午前中に家庭ごみの収集を行い、午後に災害ごみを収集した。ふじみ野市としては令和元年の収集方法で対応できるかをまずは検討していきたい。 ただし、国にも支援いただかないと対応できないような大きな

発言者	発言の要旨
	災害の場合については仮置き場の設置を検討していきたい。具体的にどこを使えるかについては、色々な部署からこの場所を使いたいといった要望が多く出されると想定されるので、その際は本部の判断に委ねることになる。
関根委員	ニューエナジーふじみ野について、残渣でガスを発生する施設と聞いており、処理能力にもよると思うが、市民にも利用してもらえるとより良いのではないか。
事務局	ニューエナジーふじみ野は1日で92トン进行处理できる施設である。毎月の搬入量の報告は受けているが、今後の方針などについてはお答えできかねるが、余力はあると聞いている。
高原委員長	続いて、議題「災害廃棄物処理基本計画について」事務局から説明をお願いします。
事務局	○配布した【資料2】に基づき説明
高原委員長	質問のある方はいらっしゃいますか。
高原委員長	議題とは離れるが質問がある。ふじみ野市は合併して来年で20年目を迎える。そのようななかで、大井地域は東上線と川越線を越えないと市のイベントへ行くことが難しく、物理的に場所が遠いからそもそも行く気にならないと感じている方が多くいる。今後はぜひ大井地域でも様々なイベントを実施してほしい。
事務局	例えば環境フェアであれば、実行委員の話し合いのなかで開催場所を決めているという背景があるが、市としてもぜひ多くの方に参加いただけるよう、検討していく必要があると考えている。 また、キューロの相談会などは大井総合支所でも行っており、こういった啓発事業についても幅広く進めていきたい。
高原委員長	議題「その他」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	乾電池袋の必要性について、以下の①～③の今後の方向性も含め意見を伺いたい。 ①例年通りBOOKと併せて配布する ②ゆくゆくは廃止する ③配布方法や作るタイミングを変更する

発言者	発言の要旨
高原委員長	方向性については市に一任でよろしいですか。
各委員	○一同了承
高原委員長	他にご意見がないようであれば、今日の会議はこれで終了とさせていただきますと思います。閉会につきましては、鎌田副委員長をお願いします。
鎌田副委員長	以上を持ちまして『令和6年度ふじみ野市一般廃棄物処理基本計画市民検討委員会第1回会議』を終了いたします。 ありがとうございました。